

G I G Aスクール構想に基づく 1人1台端末の更新に関する進捗について

GIGAスクール構想による1人1台端末の整備



背景

GIGAスクール構想により文部科学省が示した3つのOSの端末モデルの中から横浜市において導入する端末を令和2年度に選定



GIGAスクール構想第1期

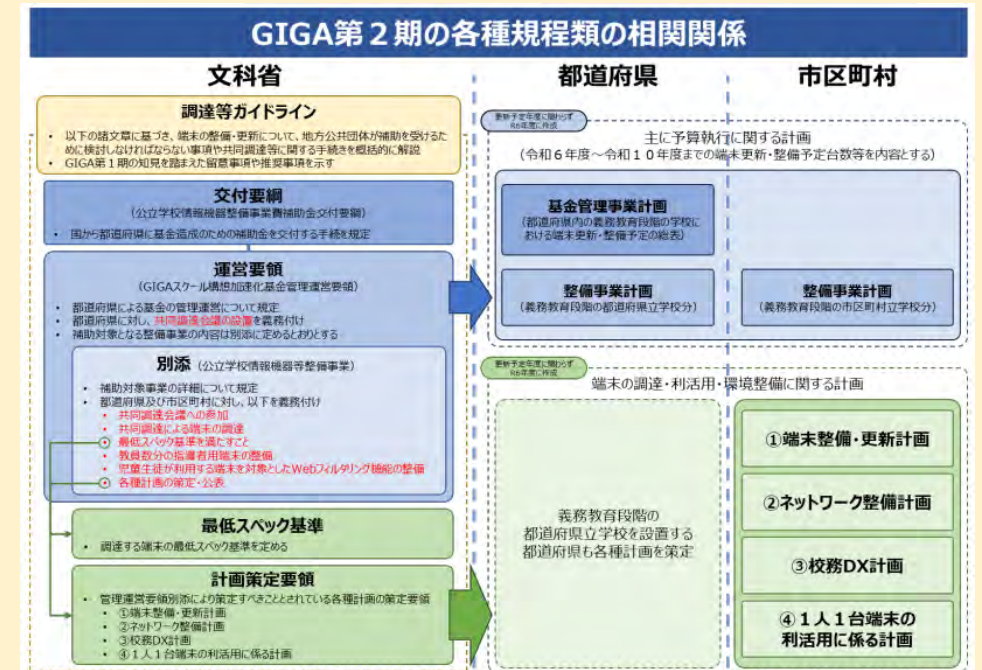
令和2～3年を中心に小学校・中学校・特別支援学校の児童生徒・指導者用あわせて28万台の端末整備を実施

校種	合計	端末OS
小学校	191,366台	iPad端末
中学校	87,059台	Chromebook端末
特別支援学校	2,223台	iPad端末



GIGAスクール構想第2期

「国策であるGIGAスクール構想の第2期を見据え、(略)予備機を含む1人1台端末の計画的な更新を行う」(令和5年11月閣議決定)



国の基金を活用し、校種ごとにGIGA端末の更新を実施



- ・R7～8年度:中学校端末
- ・R8～9年度:小学校・特別支援学校端末

教育用端末整備に関する懇談会開催概要

	氏名	役職		氏名	役職
有識者	中川 一史	放送大学 情報コース・情報学プログラム 教授	学校関係者	高山 和宣	横浜市立末吉小学校校長
	山本 光	横浜国立大学教育学部 学校教員養成課程 数学教育教授		土谷 満	横浜市立茅ヶ崎中学校校長
	豊福 晋平	国際大学グローバル・コミュニケーション・センター 主幹研究員 准教授		白井 美由紀	教育委員会事務局教育政策推進課長
関係局	福田 次郎	最高情報統括責任者補佐監		熊切 隆	教育委員会事務局学校経営支援課長
				金井 国明	教育委員会事務局特別支援教育課長

	懇談会日程	概要
第1回	7月4日(金)	第1期の振り返り 第2期に向けて
第2回	7月17日(木)	3OSによるプレゼンテーション 横浜市が目指す学びに適した児童生徒のOS 次期端末選定で重視したい要素 校務DXと教員の働き方改革を見据えた教員のOS
第3回	8月28日(木)	端末活用にあたって留意すること

懇談会での主なご意見 ①

項目	ご意見
第1期の振り返り	<ul style="list-style-type: none">・小学校では特に低学年ほどカメラ機能の活用が多くニーズも高い。・中学校では文書作成・発表などの場面で活用が伸びてきていると感じている。・重さの面では、小学校のiPadは軽くて良い印象、中学校ではChromebookでも問題ない。・子どもの端末の日常利用に学校での端末活用状況が追いついていないのではないか。・小学校から中学校への移行はスムーズに行われており、全国的にも校種でOSが違うことで混乱した事例はない。・学校の机は狭く落下しやすい。堅牢性や耐水性も小学校にとっては必要な要素になる。・バッテリー関係の課題は改善できると良い。  
第2期に向けて	<ul style="list-style-type: none">・カメラ機能は学校現場で紹介、制作、共有など様々な使われ方により表現活動を支えている。・蓄積されたノウハウや想いを繋げるために大きく変えないで継続利用することも有力な選択肢となる。・特別支援学校では感覚的・直感的に使い、アクセシビリティに優れたiPad継続の意見が多い。・児童生徒の発達段階に応じた学びのためなら、校種ごとに異なるOSを使うことは良いのではないかな。・使い方やメンテナンスに時間をかけず教員が安心して使える環境整備が必要。・クラウドサービスの拡大やAIの活用等、先を見据えた機種選定が必要。・小学校でも、低学年はiPad、中高学年でChromeと発達段階でOSを使い分けても良いのではないかな。

懇談会での主なご意見 ②

項目	ご意見
横浜市が目指す学びに適した児童生徒のOS(校種別)	<ul style="list-style-type: none"> ・マルチメディア(写真・音声・動画)を活用できることも表現活動として重要である。 ・情報活用能力は総合的学習をはじめ、答えのない学習活動で発揮される。 ・情報活用能力は手段・スキルベースよりも、目的と実践活動に紐付けて整理してはどうか。 ・子ども自身が動機を持てれば、自発的に学ぶという「真正な学び(オーセンティックラーニング)」がキーワードになってくる。 ・横浜市の特色として、多様性(特に外国につながる児童生徒の多さ)への配慮も必要である。
次期端末選定において重視したい要素	<ul style="list-style-type: none"> ・耐久性やバッテリー性能はメーカーによって異なるため、慎重な選定が必要となる。 ・タイピングを考慮すると、キーボードのストロークやキーの独立は重視すべき。 ・タッチパッドやペンなどのポインティングデバイスの性能は重視すべき。 ・スタンドの自立、水や砂への耐性も含めた堅牢性も必要である。 ・端末やID管理のセキュリティの確保、データやログの監査的な機能が求められる。
校務DXと教員の働き方改革を見据えた教員のOS	<ul style="list-style-type: none"> ・校務用と指導者用端末を統一する場合は、既存のドライバやOS依存のアプリへの対応、過去の教材等が使えるかどうか懸念点となり、Windowsの継続を希望する声が多い。 ・教材の再現性が確保できないと現場で混乱が起きるため、児童生徒用予備端末の活用が重要になる。 ・校務用としても活用する場合、教員に配布する端末のグレードは重要である。 ・Google Workspaceとの親和性を考慮し、Chromeブラウザ利用を基本としても良いのではないか。
端末活用にあたって留意すること	<ul style="list-style-type: none"> ・「情報モラル・リテラシー教育の段階的な設計」や「これからの教員に必要なICT指導力とその育成・研修体制」などについて意見交換

端末更新における次期端末の考え方

学校区分	選定理由	次期端末
小学校	タッチパネルの性能、端末本体の軽さ 感覚的・直感的な使いやすさ 高度なカメラ機能と写真や動画の編集しやすさ マルチメディアを使った表現・学習活動での活用 タイピングスキル等の情報手段の基本的な操作の習得 校種で異なるOS体験、継続性の重視	iPad端末
中学校	キーボードの活用によるタイピングスキルの向上 思考を表現する学習活動(発表・文書作成など)での活用 クラウドを活用した学習ツールとの親和性 校種で異なるOS体験、継続性の重視	Chromebook端末
特別支援学校 (小・中学部)	タッチパネルの性能 感覚的・直感的な使いやすさ 柔軟なアクセシビリティ、多様な使い方への対応 カメラ機能と音声機能の活用 慣れている端末の継続性の重視	iPad端末

※指導者用端末として、校務利用も可能なWindows端末の導入を検討

1人1台端末の更新スケジュール（案）

中学校（Chromebook）を ● R 7 → R 8 ● 小学校（iPad）を ● R 8 → R 9 ● に更新

